様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	ものづくり人材育成支援事業	コード	11305

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	工業振興課	作成者	下田典弘

3 事業概要				
目的体系	基本目標	魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち		
	政　策	基幹産業の振興	施　策	工業の振興
	予算科目	ものづくり人材育成支援事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	なし		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		小中学生等にものづくりの楽しさ、尊さを学ぶ機会を提供し、将来のものづくり人材の育成を図る。また、後継者育成支援により、産業集積地としての強みを維持する。
目的	対象者	市内小中学生、市内企業の後継者及び若手従業員
	意　図	ものづくり人材の育成

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

■「21経営者研究会」の活動（先輩経営者による講演会や工場見学等）を支援した。
（全6回、参加者数のべ53名）
■小学生を対象とし、オリジナルペンケース等の製作や市内企業の見学を行う「ものづくり体験隊」を実施した。（夏休み期間中の2日間、のべ44名）
■ものづくりフェア2017において、ものづくり体験ができる機会を設けた。（参加者数640人）
■岡谷・下諏訪ロボバトル2016を実施した。（参加者数：計39名（小学生30名、中学生9名）
・芝浦大学で開催された全国大会において、市内の中学生が優勝、準優勝と好成績を残した。
■信州大学修士・博士課程専門職大学院支援事業として、地域製造業の活性化と人材育成支援を行った。
（受講者数：修士1名、博士10名、スキルアップコース4名）
■若手経営者同士の交流を目的に、さばえものづくり博覧会2016の視察と鯖江市内企業との交流会を実施した。（参加者数：21経営者研究会会員5名）

前年度の課題への対応	市内の小中学生や若手経営者を対象に、ものづくり人材育成支援を継続実施した。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	講座開催数			単位	回
実績値	5	6	6		
＊指標の説明	21経営者研究会の開催回数				
② 成果指標（指標名）	企業数			単位	社
目標値	11	15	17		
実績値	15	17	16		
達成度	136.4%	113.3%	94.1%		
＊指標の説明	21経営者研究会の参加企業数				
＊目標値の設定方法の説明	前年度実績				

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	1,197,891	1,151,318	1,053,372	1,267,000
経常経費	609,523	801,318	534,612	517,000
臨時的経費	588,368	350,000	518,760	750,000
＊臨時的経費の説明				

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費		4,400,000	5,200,000	4,800,000	4,800,000
正規職員の人数（人）		0.55	0.65	0.60	0.60
③ 合計コスト（①＋②）		5,597,891	6,351,318	5,853,372	6,067,000
前年度比			113.5%	92.2%	103.6%
財源内訳	一般財源	5,567,891	6,289,318	5,775,372	5,997,000
	特定財源	30,000	62,000	78,000	70,000
＊特定財源の説明					
④ 活動一単位あたりコスト		1,001,905	1,000,220	889,102	
前年度比			99.8%	88.9%	
⑤ コストに関する補足説明					

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
ロボバトル共催事業補助金	件数	1	1	1	1
	金額	350,000	350,000	350,000	350,000
大学院修士博士課程支援事業補助金	件数	1	0	0	1
	金額	50,000	0	0	200,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	400,000	350,000	350,000	550,000
	割合	33.39%	30.40%	33.23%	43.41%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性**　**高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性**　**高い**

評価項目		はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。		1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。		1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値　前年度比　94.1%	1	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値　達成度　94.1%	1	0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） 次代を担う若手ものづくり人材の育成は、継続実施することで将来において効果が現れる。
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ものづくりフェアにおけるものづくり体験教室等の開催や若手経営者同士の交流を通じ、継続したものづくり人材の育成支援を展開する。
改善開始時期	

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	B